

2004 ミニ・ディスクロージャー

見てわかる“しんきん”



新庄信用金庫ステンドグラス「北の春」は、当金庫の本店新築時に郷土出身の一水会会員、近岡善次郎画伯の原画・監修によって創作されたものです。

「北国に春が来て、遠山にまだ雪が残っているのに梅、桃、桜が同時に咲き出し、少し遅れてサクランボの緑がかった白い花が咲く、それが雪のやっと消えたかげろうのたなびく野を埋める。働く人も春の野に出ることは喜びである。春風を胸いっぱい吸って、本当に生きている喜びを味わう。この気持ちの良さは、東北生まれの私にとって最高の喜びとして一生忘れず思い続けることだろう。」

近岡 善次郎

基本方針

- 郷土の繁栄に心から奉仕する
- 内容の堅実な金庫にする
- 和顔愛語に満ちた明朗な
車風を創る
- 待遇の優れた金庫にする



ごあいさつ

皆様には、平素より私ども信用金庫をお引立ていただきまして、誠にありがとうございます。

この「2004年度版ミニ・ディスクロージャー誌」は当金庫第85期（平成15年度）の決算の状況と事業の概況をご報告するとともに、当金庫の内容等をわかりやすくご説明申し上げるために作成いたしました。ぜひ、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

さて、平成15年度の我が国経済は、ようやく景気の底離れの兆しが伺えるものの、個人消費の低迷が続く、全体としてデフレ不況から脱却できない状況が続いておりますが、当金庫は創業支援・商店街活性化など地域振興の為に努力を重ねながら、堅実経営を目指し、業務に邁進しております。

このような経営環境下において、本業での利益を示す「コア業務純益」が381百万円（前年比17百万円増）となりましたが、資産の健全化を一層進めるために前年を上回る引当処理を行った結果、経常利益102百万円、当期純利益66百万円にとどまりました。

また、当金庫の自己資本比率は13.43%（前年比0.53%増）と国内基準の4%を大幅に上回る水準となっております。

今後も、政府の景気回復に向けた施策が期待されるものの、原材料価格高騰など不安要因も多く、尚も停滞した状況が続くものと予想されますが、これまで以上に皆様にお役に立てる金融機関になるため、リレーションシップバンキング（お客様との信頼を重視した金融業務）を実践し、地域に根ざした業務運営に努め、さらに“真心のこもったサービス”を提供して参りたいと考えております。

今後とも、皆様の一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年8月

理事長 井上洋一郎

Q1 決算の状況について

A

おかげさまで15年度決算では、381百万円のコア業務純益（本業での利益）、および66百万円の当期純利益を計上することができました。

●資産内容の健全化を第一に考えました。

景気の低迷により地域経済においても、中小企業は依然として厳しい状況が続いており、金融機関は全般的に、貸出金を中心とした効率的な資金運用が難しく、収益環境は厳しさを増しております。

平成16年3月末の決算は、**預金残高547億円（前年比1.1%減）、貸出金残高404億円（前年比1.1%減）**となりました。

収益面では、資産内容の一層の健全化に向け、貸出金の償却2百万円、貸倒引当金の繰入341百万円を実施した結果、**経常利益102百万円、当期純利益66百万円**、本業での利益を示す**コア業務純益381百万円**となりました。

(百万円 以下単位未満は切り捨て)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度
	第83期	第84期	第85期
業務純益	447	241	389
コア業務純益	347	364	381
経常利益	109	52	102
当期純利益	110	27	66

〈しんきん〉のコストパフォーマンス

当金庫のオーバーヘッドレシオ（OHR）は、13年度は74.4%、14年度は79.4%、15年度は74.7%と4.7ポイント改善しております。経営合理化・効率化の指標としてよく使われるOHRは、「**粗利益をあげるためにどれくらいの経費を使ったか？**」を比率で示したものです。つまり、当金庫は100円の粗利益をあげるために使う経費が74円→79円→74円と推移しているというわけです。15年度に比率が改善した理由としては、金利の低下等による貸出金利息収入の減少があったものの、経費等の削減努力によるものですが、今後も引き続き経営合理化による、**ムダのないスリムな経営**を目指してまいります。

なお、出資の配当率は年4%を継続させていただき、今期の収益から内部に積み上げた自己資本は、引き続き地元へのご融資等の原資などとして活用させていただきます。

景気の先行きはまだまだ楽観できないものの、どんな不透明な状況下でも、皆様へのご融資資金を安定的に供給できるよう、〈しんきん〉はこれからも頑張っております。

なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

$$\begin{aligned} & \blacksquare \text{自己資本比率} \\ & = \frac{\text{自己資本額}}{\text{リスク・アセット}} \times 100 \end{aligned}$$

経営健全性の指標
「自己資本比率」は

13.43%

国内基準4%の**3倍以上**
高い安全性を確保しています。



Q2 自己資本比率について

A 前年度を上回る13.43%になりました。
「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準となっています。

●自己資本比率は金融機関の安全性を示す判断指標のひとつです。

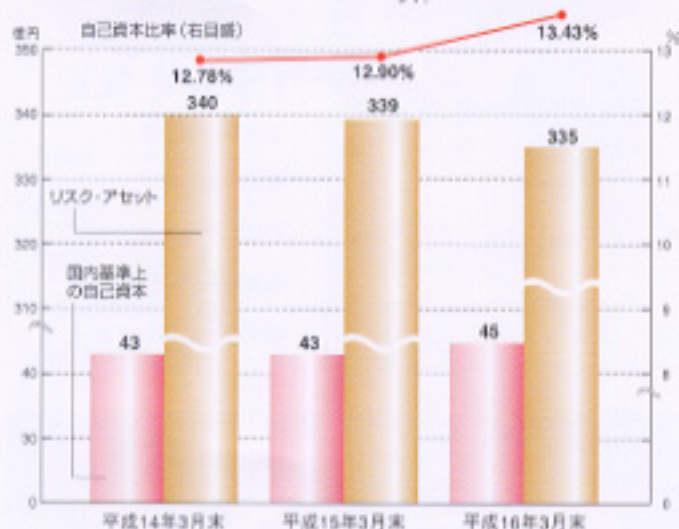
自己資本比率は金融機関の安全性・健全性を示す指標のひとつで、資産に対する自己資本(出資金・利益準備金・積立金など)の割合、つまり「いざというときの備えの水準」を表しています。信用金庫のように国内のみで営業活動を行う金融機関については4%あれば経営体質が健全であると判断されています。

●自己資本比率は13.43%と高水準を維持。

当金庫は経営の健全性向上のために、自己資本の充実を重点課題のひとつとして、毎年の収益の中から、安定した内部留保の蓄積を行ってまいりました。15年度はQ1でもご説明いたしましたとおり、資産内容の一層の健全化を図るため、前年を上回る引当を行ったものの、自己資本比率は0.53%上昇し、13.43%と高水準を維持しております。

自己資本比率の推移

※国内での金融業務を行う「信用金庫」に対して「平成15年度」が発効される法律は、その自己資本比率が4%未満となった場合と定められています。当金庫はこの国内基準を採用しています。



預金・貸出金の推移

●預金残高の推移 (億円)

	平成12年 3月末	平成13年 3月末	平成14年 3月末	平成15年 3月末	平成16年 3月末
個人預金	424	438	445	450	460
法人預金	118	115	108	103	87
預金残高合計	543	553	553	554	547

個人預金は取引履歴の拡充により増加したものの、長期的な販売促進から企業の手元資金の取り崩し等による法人預金の減少により7億円減少して547億円の残高となりました。

●貸出金・代理貸付残高の推移 (億円)

	平成12年 3月末	平成13年 3月末	平成14年 3月末	平成15年 3月末	平成16年 3月末
貸出金残高	396	396	405	408	404
代理貸付残高	66	62	56	50	46
計	463	459	462	459	450

アパート建設資金や住宅建設資金需要に積極的に応拠しましたが、景気を反映し個人消費、建設業の減少により貸出金は4億円減少し、404億円となりました。一方、住宅金融公庫貸付等の減少により代理貸付は、4億円減少して46億円となりました。

Q3 不良債権の状況について

A 従来にも増して厳格にルールを守り、適正な処理を行っています。

●積極的な不良債権処理を行っています。

金融機関は、企業の運転資金や設備資金、また個人のお客様向けに各種のローンなどを取り扱っていますが、融資先が不幸にも経営不振になったり倒産したりすると、貸出金の回収ができなくなる場合があります。そうなる可能性の高い貸出金を不良債権といいます。

金融機関は、経営の健全性を高めるために、資産の健全度を自己査定によって評価し、これに基づき不良債権の適正な償却や引当をすることが義務付けられております。

当金庫は**資産の健全化を経営の最重要課題と位置づけ**、厳格な自己査定基準に基づき適正な償却・引当を行うなど、**不良債権の1割を回っております**。

16年3月期の状況

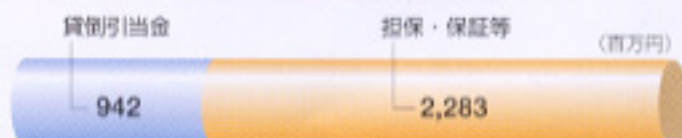
(百万円)		(百万円)	
リスク管理債権	金額	金融再生法債権	金額
・破綻先債権	368	・破産更正債権およびこれらに準ずる債権	999
・延滞債権	2,601	・危険債権	1,980
・3ヵ月以上延滞債権	32	・要管理債権	992
・貸出条件緩和債権	959	・正常債権	37,528
合計	3,961	合計	41,500

金融再生法に基づく不良債権とその保全状況

●金融再生法上の不良債権計 3,972百万円



保全額計 3,226百万円



保全率 81.21% (3,226÷3,972×100=81.21%)

中小零細企業に携わる方々や、個人のお客様の円滑な金融を担うことが、地域金融機関である信用金庫の最も大切な役割ですから、特にこの長引く不況下においては、ある程度の不良債権の発生はやむを得ないと考えております。

上のグラフにある通り、不良債権合計3,972百万円のうち3,226百万円は**貸倒引当金(942百万円)および担保・優良保証等(2,283百万円)により保全されております**。

Q4 預金保護のしくみについて

A 預金保険制度による預金保護のうち、当座預金や普通預金などの全額保護は17年3月末まで延長されました。

●預金等の保護の範囲 (14年12月現在の預金保険法による)

預金保険対象	当座預金 普通預金 定期預金 定額積立預金 通知預金 貯蓄預金等	全額保護	平成14年4月	平成17年4月
			利息がつかない等の条件を満たす預金は(注1)全額保護	
預金保険対象外	外貨預金等	破綻金融機関の財産の状況に応じて支払い		

(注1) 「決済用預金」といい、「無利息・要求払い・決済サービスを提供できる」という3条件を満たすものです。

(注2) 15年4月以降に合併・事業譲受を行った金融機関には、下記「特措法」により、保護金額に特別措置があります。

●合併後1年間は保護金額に特別措置があります。

「金融機関等の組織再編成の促進に関する特別措置法」により、15年4月以降に合併等を行った金融機関については、合併期日から1年間に限り、預金保護金額の上限を預金者1人あたり「元本1,000万円×合併等に関わった金融機関の数」とその利息とするようになりました。

もっと知ってほしい、その実力。信用金庫と信金中金。

●信用金庫有記数(2004年3月末現在)のものです。
●信金中金有記数(2004年3月末現在)のものです。
ただし、信金金は2004年4月末現在、配当利率は2004年度予想配当金をもとに2004年4月末時点で算出したものです。

地域経済のパートナー 【信用金庫】

- 豊富な預金量
.....105兆円
- 巨大なネットワーク
...全国306金庫、8,058店舗
- Face to Faceの事業展開
.....従業員数12万1千人
- 多数の出資者
.....909万人



信用金庫と信金中金は、手を携えて地域経済の繁栄に貢献しています。

信用金庫のセントラルバンク 【信金中金】

- 豊富な総資産
.....30兆円
- 高い自己資本比率
.....16.64%
- 低い不良債権比率
.....0.50%
- 邦銀トップの格付
.....AAA(格付機関JCR)
- 高配当の優先出資
.....配当利回り2.83%



心に響く、シーンがある。

Favorite Scene.



PRIVATE BOOTH LEXINGTON SHINJO

日本の原風景が散見されるエコポリス、Mogamiエリア。その中心地Shinjo City、古くから交通の要所として発展してきた雪まつりのふるさと。長年の夢だった新幹線のターミナル新庄駅の実現を機に完成した小さな文化ホール、レキシントンShinjo。心地よい空間があなたをお待ちしております。



新庄信用金庫

※より詳しい内容は各営業所に信用金庫法に基づくディスクロージャー誌「新庄信用金庫の状況」を備えつけておりますので、ご覧ください。
ホームページ <http://www.shinjosk.com/>

■本店/山形県新庄市本町2番9号 ■作成/本部(総合企画室) ☎0233-22-4222 FAX.0233-23-1690 ☎0120-255-744